昭和51年9月14日国鉄首都特別扱承認新聞紙第422号

週刊

# うたごえ新聞

1/28
（1980年）
NO.793

THE SINGING VOICE OF JAPAN
日本のうたごえ全国協議会機関紙
発行　東京都新宿区大久保2-16-36
☎03（209）0638～9　うたごえ新聞社
振替口座 東京2—5631 昭和34年1月31日
第三種郵便物認可　毎週月曜日発行
1部80円（〒15円）・月330円（〒70円）

## 日本のうたごえ全国協議会
# 80年代を討論する全国総会
（1/31～2/1）

八〇年代の初頭に開かれ、今後の運動方向を決定する日本のうたごえ全国協議会第十三回総会が、二月九日午後七時から静岡県・伊豆大川の国労教育センターで開かれます。

今総会は、「八〇年代の長期計画をつくるにあたって」の討議を中心に、「七九年祭典総括と今後の開催計画」「七九年の活動総括と八〇年方針」「新役員選出」などを主な議題にしています。

また、新しい体制と組織のあり方の改組から一部「規約改正」が行なわれる予定。

当日のあいさつ者は、井上頼豊、岩井章氏なども予定されて、参加者は常任委員会決定に基づく代議員（加盟団体）とオブザーバー（未加盟団体）で構成されます。

総会は二月十一日午後五時に終了する予定で、宿泊希望者（1泊3食4500円）は一月末日までに事務局へ申込む。

なお、会場は熱海より伊豆急・伊豆大川駅下車。

問合わせ ☎〇三（二〇〇）〇一〇六、日本のうたごえ全国協議会事務局まで。

次号に方針案を一挙掲載します。

# 島に伝わる手まり唄

## 鹿児島・沖永良部

東北地方と同じように民謡の多い奄美、その一つの島が私の故郷でもあり、ここ数年機会あるごとに島島を歩いて採譜など調査をしています。

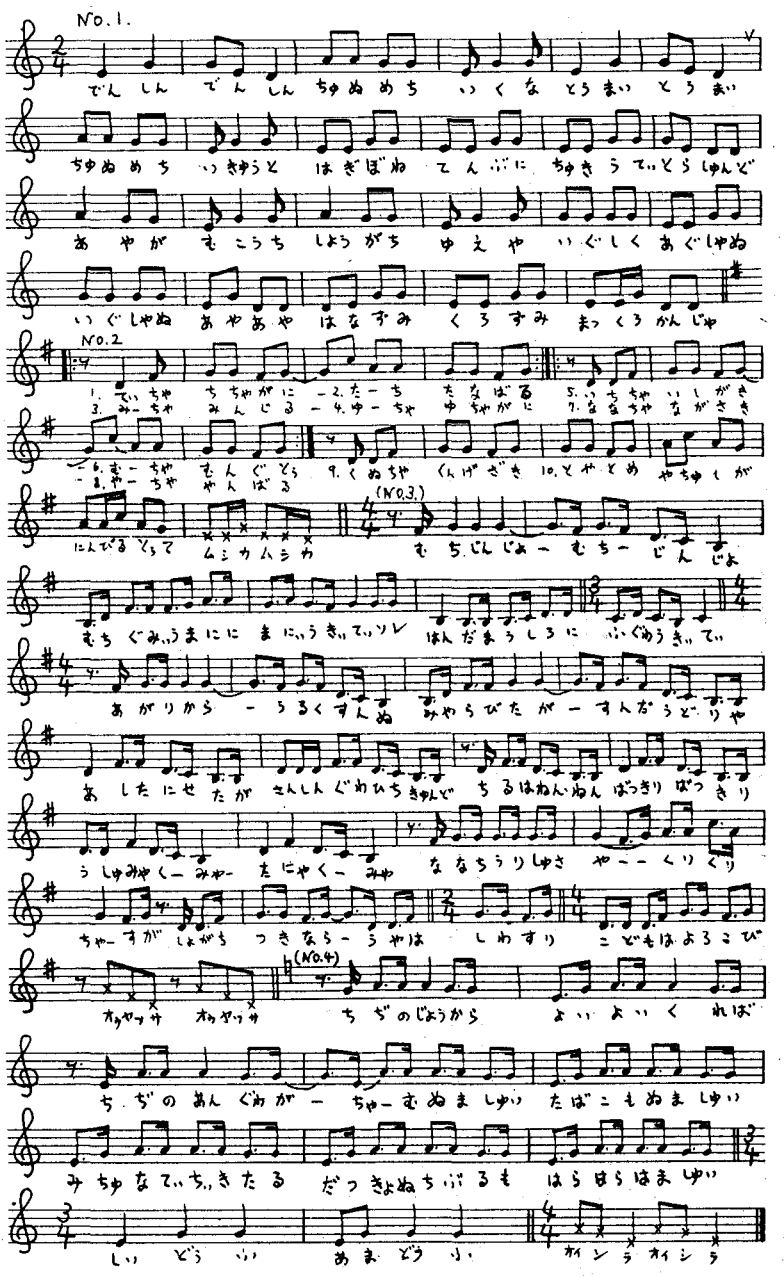
その村の歴史や風土、時には夜を徹してお年寄りと昔話などを語り明かしています。

その中の一つ、奄美諸島の沖永良部島（おきのえらぶじま）の「手まり唄」を、島の友人、大村隆治氏が録音し、レコードにしたものから採譜してみました。

この手まりは〝そてつ〟の新芽が出るときや、花（雌花と雄花が別別に咲き、特に雄花は独特の匂いがあります）が咲く頃に出る、赤茶色をした綿のような毛を、好みの大きさの手まりぐらいに集め、丸くして、その上に木綿糸を巻き、最後に色のついた糸（時には絹糸）で模様巻にして、美しくでき上がったまりをつきながらうたったものです。

まりそのものは、本土のものとあまり変わりませんが、まりの中に入れるものが違っているだけです。

（沖永良部島）　手まり唄（とうまいうた）　採譜　清村杜夫




★平均律でなく、純正調です。

採譜した唄は、ミソラ）、No.2とNo.3は琉球旋法（ミファソシド）のようであるところから、No.1とNo.4は、明治以後に本土から移入したものではないか、と思われます。No.1は東京でうたわれたものとよく似ている、という人もいます（私の妻は東京の大井駅付近で生まれ育った）。

ピアノやアコーディオンで音を取りながら、うたってみて下さい。楽しいですよ。

清村杜夫（音楽センター・アコーディオン教室講師）

**譜案の解説**＝No.2は数え唄でそれぞれ、ていーち＝一、たーち＝二、みーち＝三、ゆーち＝四、いちち＝五、むーち＝六、ななち＝七、やーち＝八、くぬち＝九、とうー＝十。

数字のあとに、地名等が出ているが、意味の分らないものもある。

## ふめんだハ

東京にも初雪が降って、灰色の世界が白一色になった。

大都会の雪は、自然が与えた一年に一度のお化粧と思っている。

☆　★　☆

コンクリートの上に綿が敷かれ、小さな子どもがたわむれる姿に少しは生への確かめができる。

ああ、どんなにかもっと雪が降ってくれないか、心を洗ってくれないか。

☆　★　☆

全国総会を前にして、各分野へ提言さかん。

歌がない、というより、どんな歌が必要か、いい歌があっても広めない、大衆歌曲がほしい—方針が下からの討論で豊かになるためにはあなたのサークルも一端をになう。

☆　★　☆

ふるるんと
ビルの谷間に
雪の音（未）

＜41号＞
創作特集号